

平成23年11月30日

村上市議会議長 様

委員会名 総務常任委員会

委員長名 小池 晃

### 常任委員会行政視察報告書

下記のとおり、行政視察を行ったので、その結果を報告します。

#### 記

1 期 間 平成23年7月20日(水)～7月22日(金)

2 視察地 鹿児島県鹿児島市 鹿児島県南九州市

3 参加委員氏名

木村貞雄 滝沢武司 小野七五三  
瀬賀秀雄 小池 晃 (5名)

4 調査項目

鹿児島県鹿児島市 平和行政について  
鹿児島県南九州市 平和行政について

5 調査の概要

第1日目(鹿児島市)

鹿児島市は人口607,000人、面積547km<sup>2</sup>、南九州の中核都市として限らない発展を続けていますが、先の大戦により、大小8回の空襲を受け市街地のほとんどが焼け野原となり、被災者115,385人(うち死者3,329人)もの市民が犠牲になりました。

しかし、戦後65年の歳月が流れ、今日では国民の4人に3人が戦後生まれとなり、戦争の記憶は風化しつつあると言われています。

そのため、あらゆる国の核兵器の全面廃絶と恒久平和を願い、平成2年に「平和都市宣言」を行い、様々な平和啓発事業に取り組んでいます。

#### 平和啓発の主な事業

##### (1) 例年実施

戦災と復興写真展の開催

標語の募集

宣言文入りの啓発物の配付

原爆犠牲者への黙とう呼びかけ

太平洋戦争民間犠牲者慰霊碑「人間の碑」への献花

第二次世界大戦戦亡者慰霊祭の実施

鹿児島市戦没者追悼式の実施

##### (2) 平和都市宣言20周年記念事業(平成22年度)

長崎原爆展の開催

作文、ポスターの募集

平和都市宣言20周年記念作品集の発行及び作品展の開催

平和都市宣言ポスターの発行

尚、第5次総合計画では一層の平和意識の向上を目指し「平和意識の醸成」を明文化したとのことでした。

#### 第2日目(南九州市)

平成19年12月1日に3町(川辺町、知覧町、瀬田町)が合併し南九州市が誕生しました。

薩摩半島の南部に位置し、人口4万人、面積357.85km<sup>2</sup>の南薩地域の地理的中心に位置しています。

南九州市では、「知覧特攻平和会館」を中心に研修しました。

大東亜戦争(太平洋戦争)が勃発した直後の昭和16年福岡の大刀洗陸

軍飛行学校の知覧分教所が開設され、それまで静かなたたずまいの城下町は一変、爆音に明け暮れる町となりました。

その後、戦局は急速に悪化の事態を迎え、昭和20年春には遂に本土最南端の陸軍特攻基地となりました。

爆装した戦闘機で若い命を自ら戦禍に投げ出さざるを得ないという人類史上類をみない特攻作戦、日本各地から集結した20歳前後の若い隊員たち1,036人もが周辺の基地から沖縄へと特攻出撃しました。

#### ～知覧特攻平和会館の建設～

特攻をとおして戦争のむなしさ、平和の大切さ、ありがたさ、命の尊さを訴え後世に正しく語り継ぎ、恒久平和を祈念することが住民の責務であると昭和50年、「知覧特攻平和会館」を建設するとともに、「平和を語り継ぐ都市」を宣言して平和への決意を示しています。

#### ～知覧特攻平和会館での平和学習～

5人の館内案内人(語り部)による講話及び特攻隊員たちの遺書・手紙などの閲覧を通して平和の大切さ、命の尊さを学習することができる。

会館の入館者数は、年間50～70万人を数え累計入館者数は22年度末で1580万人だそうです。

入館者の感想は、戦争体験のある方々の多くが「彼らの死を無駄にしないためにも、もっと多くの人に知ってほしい」「涙なくして見学できない、若い人にももっと知ってもらい、戦争・平和・命について考えてほしい」若者の感想は「同年代の若者が死を覚悟するという事実言葉に言葉が失う」など、多くの感想が館内の記書帳に残されているそうです。

また、会館の使命である「特攻の事実を後世に正しく伝える」「平和学習の場としての提供」のために旅行業者とも連携してしっかりと誘客活動を行っているとのことでした。

以上概要を報告します。



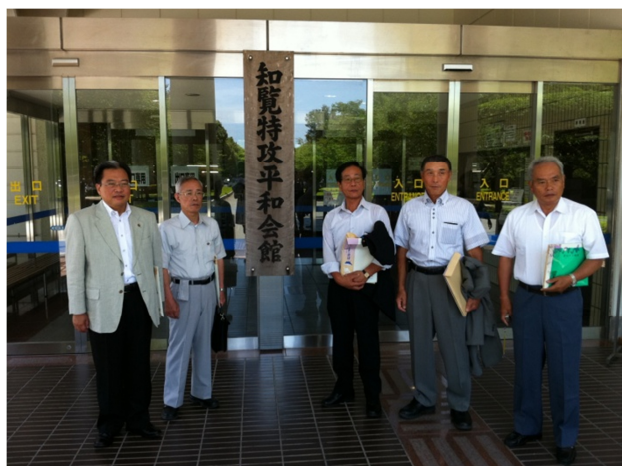
鹿児島市にて



元知覧特攻隊員よりお話を伺う



南九州市にて



知覧特攻平和会館にて

